

2006年12月5日

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

証券コード6674

(株)GSユアサ コーポレーション

平成19年3月期
中間決算説明会

www.gs-yuasa.com

1

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

I . 平成19年3月期
中間連結決算の概要

2

平成19年3月期中間連結決算概要



GS Yuasa Corporation

(単位:億円)

	H18.9 中間期	H17.9 中間期	増減額
売上高	1,207	1,125	82
営業利益	11	△7	18
経常利益	10	△8	18
中間純利益	9	5	4

3

平成19年3月期中間連結決算概要の主な増減要因



GS Yuasa Corporation

(単位:億円)
増減

項 目		増減
売上高		82
海外部門の増加		80
仲介貿易(SLA、四輪、二輪)	30	
関係孫会社	50	
(中国、台湾、東南アジア、オーストラリア)		
営業利益		18
①鉛価格高騰によるコスト増 (国内、海外とも約18億円)		△36
②海外での価格改定による改善		16
③人件費の削減(希望退職によるものなど)		19
④合理化および操業度アップなど (国内10億円、海外4億円)		14
⑤主として海外孫会社における損益改善		5

4

セグメント別業績推移①売上高・営業利益



GS Yuasa Corporation

売上高

(単位:億円)

	電池及び電源			照明	その他	消去 または 全社	合計
	国内		海外				
	自動車用 電池	産業電池 電源装置					
H18.9中間期	331	245	444	80	144	△39	1,207
H17.9中間期	323	234	364	81	159	△38	1,125
増減額	8	11	80	△1	△15	△1	82

営業利益

(単位:億円)

	電池及び電源			照明	その他	消去 または 全社	合計
	国内		海外				
	自動車用 電池	産業電池 電源装置					
H18.9中間期	△13	15	13	4	△1	△7	11
H17.9中間期	△8	4	0	4	5	△13	△7
増減額	△5	11	13	0	△6	6	18

5

セグメント別業績推移②国内自動車用電池



GS Yuasa Corporation

(単位:億円)

	売上高	営業利益
H18.9中間期	331	△13
H17.9中間期	323	△8
増減額	8	△5

売上高の増減要因

1. 新車用のアップと補修用の
ダウン

営業利益の減少要因

1. 鉛価格高騰 △14億円
2. 人件費削減効果 16億円
3. その他 △7億円
(商品構成機種の変化、
販路の変化など)

6

セグメント別業績推移③国内産業電池・電源装置 **GS YUASA**
GS Yuasa Corporation

(単位: 億円)

	売上高	営業利益
H18.9中間期	245	15
H17.9中間期	234	4
増減額	11	11

売上高の増加要因

1. 通信関連を中心とした電源装置の堅調な推移
2. フォークリフト新車用電池の拡販

営業利益の増加要因

1. 鉛価格高騰 $\Delta 4$ 億円
2. 通信関連を中心に操業度アップなど利益率の変化 10億円
3. 人件費削減効果 2億円
4. 合理化、経費削減効果 4億円

7

セグメント別業績推移④海外 **GS YUASA**
GS Yuasa Corporation

(単位: 億円)

	売上高	営業利益
H18.9中間期	444	13
H17.9中間期	364	0
増減額	80	13

売上高の増加要因

1. 産業用電池を中心とした仲介貿易の伸長
2. 海外連結子会社における販売価格改定効果の浸透など

営業利益の増加要因

1. 鉛価格高騰 $\Delta 18$ 億円
2. 仲介貿易の伸長 5億円
3. 海外連結子会社での売価改定 16億円
" 増販効果 4億円
4. ロイヤルティ収入増 3億円
5. 合理化、経費削減効果 3億円

8

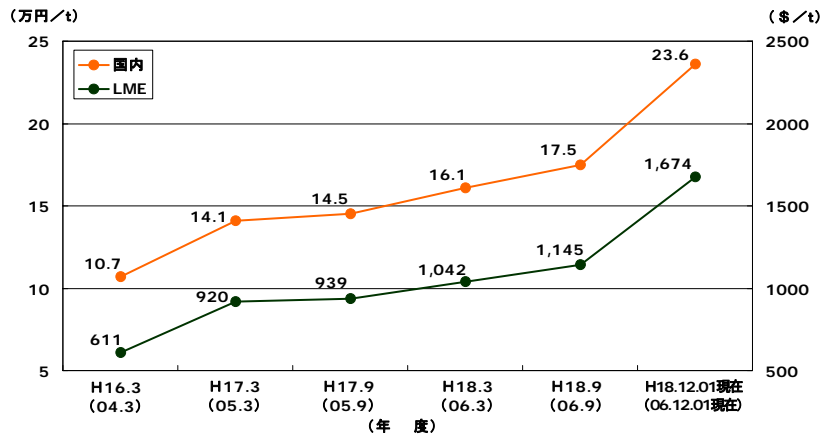
セグメント別業績推移⑤鉛建値の推移

鉛の高騰によるコスト増
(国内外とも約18億円コスト増)



対策

- 販売価格の改定
- 合理化の推進
⇒ 鉛軽量化技術など



セグメント別業績推移⑥照明

(単位: 億円)

	売上高	営業利益
H18.9中間期	80	4
H17.9中間期	81	4
増減額	△1	0

売上高の減少要因

1. 施設照明の官需分野で市況悪化
2. 紫外線照射装置で市況悪化

営業利益の増加要因

1. 遠紫外線応用光源装置が好調

セグメント別業績推移⑦その他

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

(単位: 億円)

	売上高	営業利益
H18.9 中間期	144	△1
H17.9 中間期	159	5
増減額	△15	△6

売上高の減少要因

営業利益の減少要因

1. 小型電源の縮小

1. 不動産販売関係の収入減 △4億円

11

地域別売上高

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

(単位: 億円)

	H18.9 中間期	H17.9 中間期	増減額	増減率
日本	718	722	△4	△0.6%
アジア	195	151	44	29.1%
欧米	206	179	27	15.1%
その他	88	73	15	20.5%
合計	1,207	1,125	82	7.3%

12

平成19年3月期の連結業績予想(通期)

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

(単位:億円)

	H19.3 予想	H18.3	増減額
売上高	2,500	2,434	66
営業利益	90	56	34
経常利益	80	50	30
当期純利益	40	5	35

H19.3期末配当 : 年3円(当初予想通り)

13

平成19年3月期セグメント別業績予想

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

売上高

(単位:億円)

	電池及び電源			照明	その他	消去 または 全社	合計
	国内		海外				
	自動車用 電池	産業電池 電源装置					
H19.3予想	720	600	800	150	230		2,500
H18.3	698	555	744	177	339	△82	2,434
増減額	22	45	56	△27	△109	82	66

営業利益

(単位:億円)

	電池及び電源			照明	その他	消去 または 全社	合計
	国内		海外				
	自動車用 電池	産業電池 電源装置					
H19.3予想	0	70	30	10	0	△20	90
H18.3	△9	64	△2	12	15	△24	56
増減額	9	6	32	△2	△15	4	34

14

連結貸借対照表①(資産の部)

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

(単位:億円)

科 目	当 中 間 期 末 (平成18年9月期)	前 期 末 (平成18年3月期)	増 減
[資産の部]			
流動資産	1,150	1,186	△34
現金及び預金	70	85	△15
受取手形及び売掛金	536	599	△63
たな卸資産	433	404	29
その他	110	96	14
固定資産	1,347	1,361	△14
有形固定資産	848	866	△18
無形固定資産	30	34	△4
投資その他の資産	467	460	7
繰延資産	0	0	△0
資産合計	2,497	2,548	△49

15

連結貸借対照表②(資産の部)主な増減の内訳

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

(単位:億円)

項 目	増減
流動資産	△34
受取手形及び売掛金 (売上債権の回収)	△63
たな卸資産 (需要期控え、在庫積み残し)	28
固定資産	△14
有形固定資産	△18
連結ベースの設備投資	29
減価償却費	△35
減損処理 (自動車電池生産設備集約に伴う 小田原事業所の機械設備)	△7
充電所跡地、その他の売却	△5
投資その他の資産	7
投資有価証券(時価評価など)	△32
繰延税金資産 (事業子会社再編(H19.1.1予定)他)	35
資産合計	△49

16

連結貸借対照表③(負債・資本の部)

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

(単位:億円)

科 目	当 中 間 期 末 (平成18年9月期)	前 期 末 (平成18年3月期)	増 減
[負債の部]			
流動負債	1,092	1,082	10
支払手形及び買掛金	235	296	△61
短期借入金	465	485	△20
一年以内償還社債	100	50	50
コマーシャルペーパー	42	-	42
未払金	140	143	△3
その他	108	106	2
固定負債	629	698	△69
社債	-	50	△50
転換社債型普通社債	9	-	9
長期借入金	337	366	△29
退職給付引当金	57	52	5
その他	225	230	△5
負債合計	1,722	1,780	△58
[純資産の部]			
資本金	160	150	10
資本剰余金	378	368	10
利益剰余金	43	32	11
その他	193	216	△23
純資産合計	775	767	8
負債純資産合計	2,497	2,548	△49

17

連結貸借対照表④(負債・資本の部)主な増減の内訳

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

(単位:億円)

項 目	増 減
流動負債	10
支払手形及び買掛金(買掛債務の支払)	△61
短期借入金、コマーシャルペーパー	22
一年以内償還予定社債	50
固定負債	△69
社債	△50
転換社債型新株予約権付社債 (第1回無担保転換社債型新株予約権付社債。 H18.4.14より総額30億円で発行)	9
長期借入金	△29
負債合計	△58

18

有利子負債

有利子負債の推移

(単位:億円)

	H18.9 中間期	H18.3 通期	増減額
有利子負債	955	952	3

ほぼ前期末並み

有利子負債の増減内訳

1. 短期借入金 Δ 125億円
 2. 長期借入金 76億円
 3. コマーシャルペーパー 42億円
⇒今年度より開始。
 4. 第1回無担保転換社債 9億円
型新株予約権付社債の
発行(H18.9末残高)
⇒H18.4.14より30億円で開始。
交付株式数:8,269,301株。
- 【格付けの変更(JCR、H18.8.22)】
主要事業の改善が評価され、格上げ。
BB⁺ ⇒ **BBB⁻** (長期優先債務、安定的)
J-3 ⇒ **J-2**

19

II. 中期経営計画の進捗

20

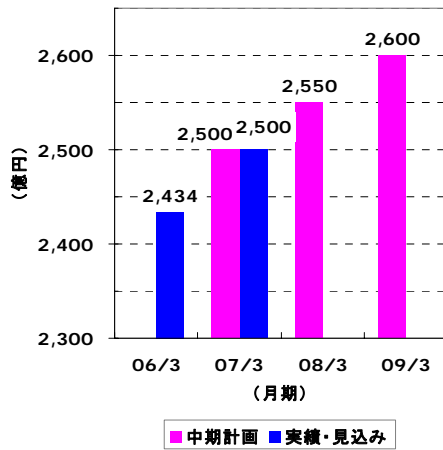
第一次中期経営計画



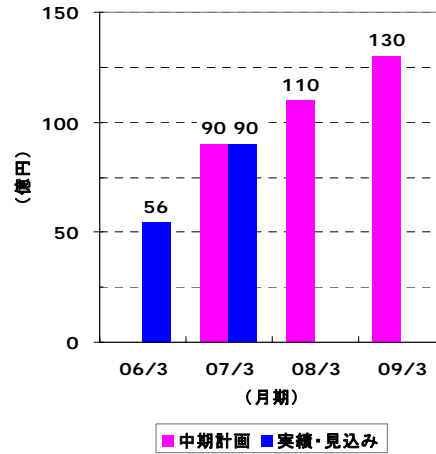
GS Yuasa Corporation

中期計画の進捗〔連結合計〕

売上高



営業利益



21

7つの事業戦略



GS Yuasa Corporation

自動車電池 事業戦略

1. 国内自動車電池事業の収益改善

2. 中国・アジア事業の拡大

3. HEV・EV市場への本格的参入

産業電池・電源 事業戦略

1. 統合効果による収益改善

2. サービス事業の強化

3. 大型リチウムイオン電池事業の拡大

周辺事業戦略

1. 有望周辺事業の強化

22

7つの事業戦略



GS Yuasa Corporation

自動車電池 事業戦略

1.国内自動車電池事業の収益改善

2.中国・アジア事業の拡大

3.HEV・EV市場への本格的参入

産業電池・電源 事業戦略

1.統合効果による収益改善

2.リサイクル事業の強化

3.大型リアウムイオン電池事業の拡大

周辺事業戦略

1.有望周辺事業の強化

23

[自]国内自動車電池事業の収益改善



GS Yuasa Corporation

(1)重要テーマ

- 売価の改定
⇒ 2006年6月より実施展開
- 統合に伴う徹底した合理化
⇒ 計画通り進行中(以下のとおり)

課題と目標	現在の進捗状況
1.機種統合(500→300機種)	計画通り (現在:400強)
2.工場拠点の集約(4→3拠点)	完了 (3拠点体制)
3.販売拠点の集約(82→43拠点)	計画通り (現在:48拠点)
4.物流合理化(9→4拠点)	計画通り (現在:7拠点)

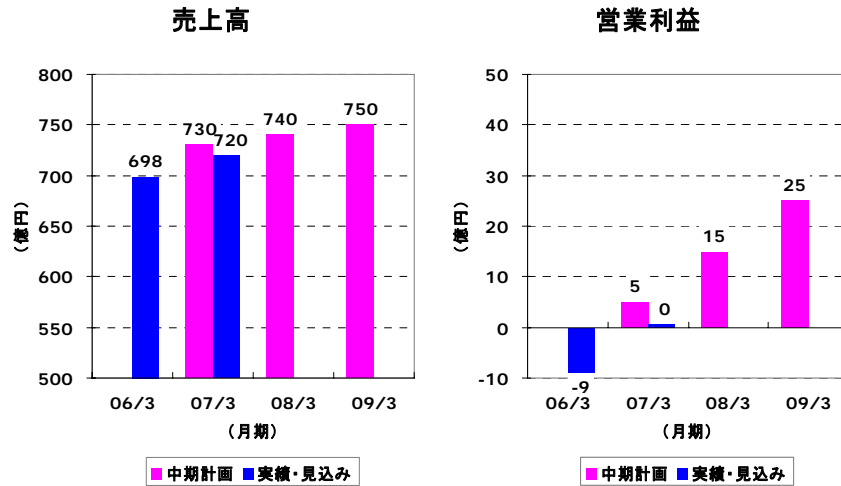
24

〔自〕国内自動車電池事業の収益改善



GS Yuasa Corporation

(2) 中期計画の進捗〔国内自動車電池事業セグメント〕

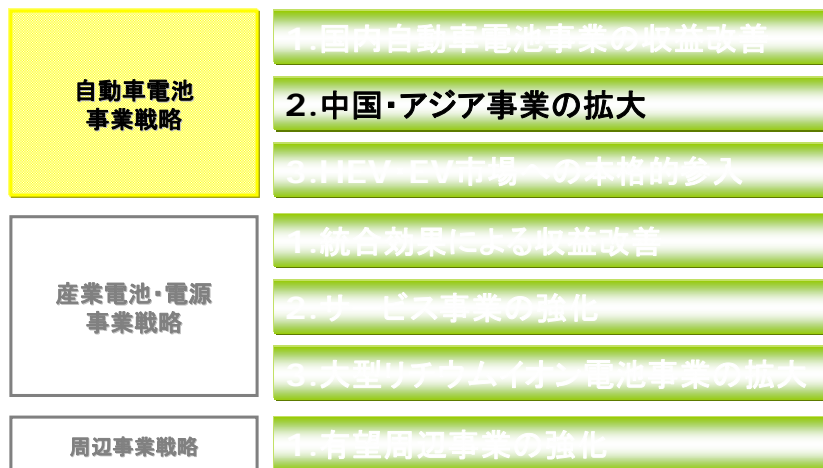


25

7つの事業戦略



GS Yuasa Corporation



26

[自]中国・アジア事業の拡大



GS Yuasa Corporation

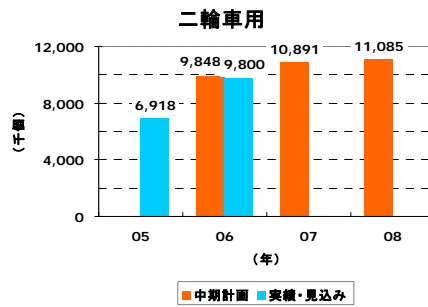
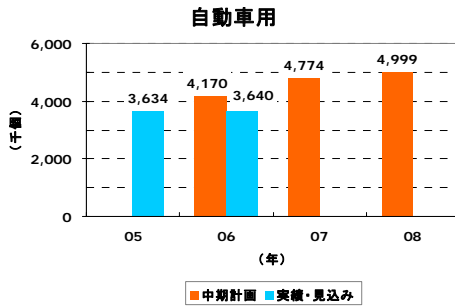
(1) テーマの状況

- 中国における電池生産量の拡大
 - ⇒ 二輪車用: 前年の約1.4倍増加
 - 自動車用: ほぼ横ばい
- 成長中のインドで工場設立
 - ⇒ 工場試運転開始、本格稼働は06年末の予定



インド工場

(2) 中国における電池生産個数



27

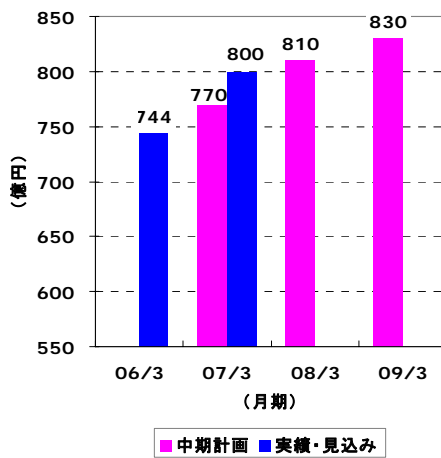
[自]中国・アジア事業の拡大



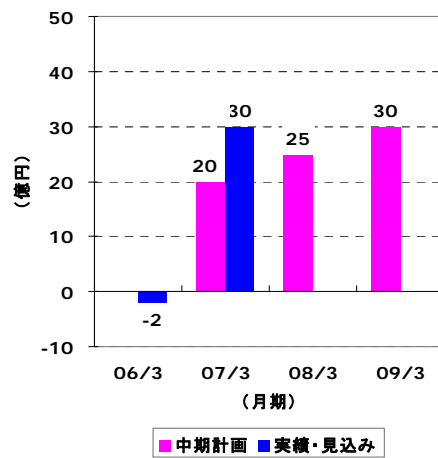
GS Yuasa Corporation

(3) 中期計画の進捗 [海外事業セグメント(全世界)]

売上高



営業利益

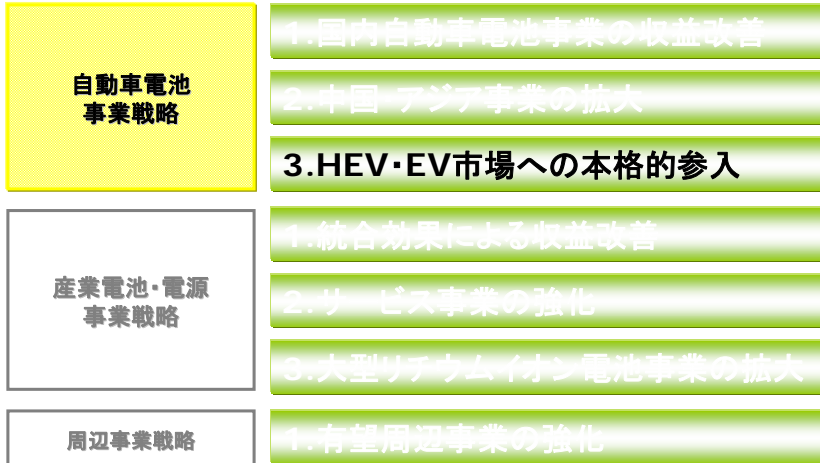


28

7つの事業戦略



GS Yuasa Corporation



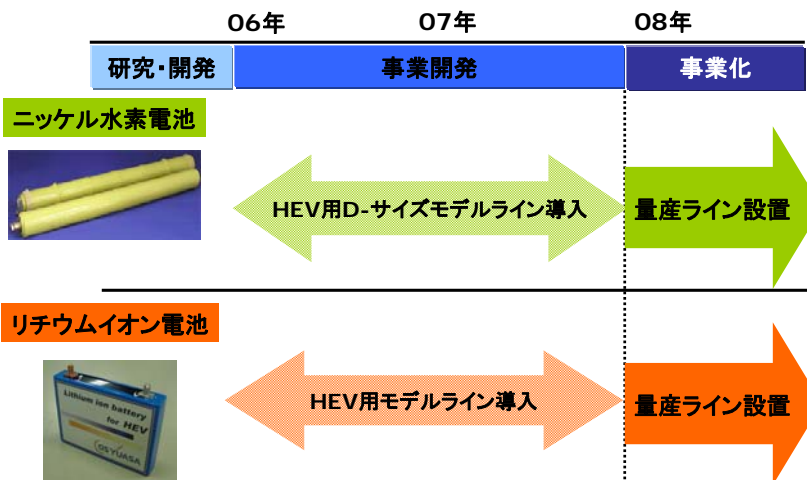
[自]HEV・EV市場への本格的参入




GS Yuasa Corporation

(2) HEV事業化の進め方

2008年の事業化開始を目指して、06、07の2年間で事業開発を実施




7つの事業戦略


 GS Yuasa Corporation

自動車電池 事業戦略	1. 国内自動車電池事業の収益改善 2. 中国・アジア事業の拡大 3. HEV・EV市場への本格的参入
産業電池・電源 事業戦略	1. 統合効果による収益改善 2. サービス事業の強化 3. 大型リアウムイオン電池事業の拡大
周辺事業戦略	1. 有望周辺事業の強化

31

産業電池・電源事業戦略


 GS Yuasa Corporation

(1) 統合効果による収益改善

課題と目標	現在の進捗状況	
1. 製品機種の統合 (1商品、1機種)	完了	<ul style="list-style-type: none"> ● 月次、季節生産量の平準化 ⇒ 民需・量産機種の受注拡大 ● 海外生産品の形式別生産工場の選定 ⇒ SLA電池、産業用電池
2. 生産拠点の統合 (1製品、1拠点)	完了	
3. 販売拠点の統合	完了 (140→70拠点)	

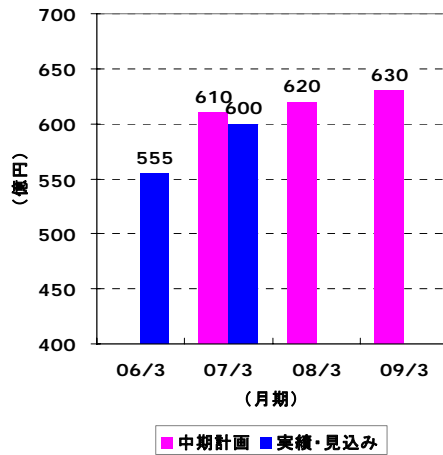
(2) サービス事業の強化

- 特約店に対する製品サービス研修の強化
⇒ サービス拠点: 162拠点(直営・特約)
- サービス会社とサービス事業化検討会継続
⇒ 自社製品サービス、他社製品サービス請負

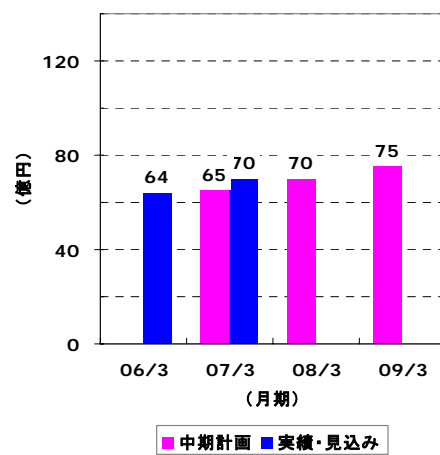
32

(3) 中期計画の進捗〔産業電池・電源装置事業セグメント〕

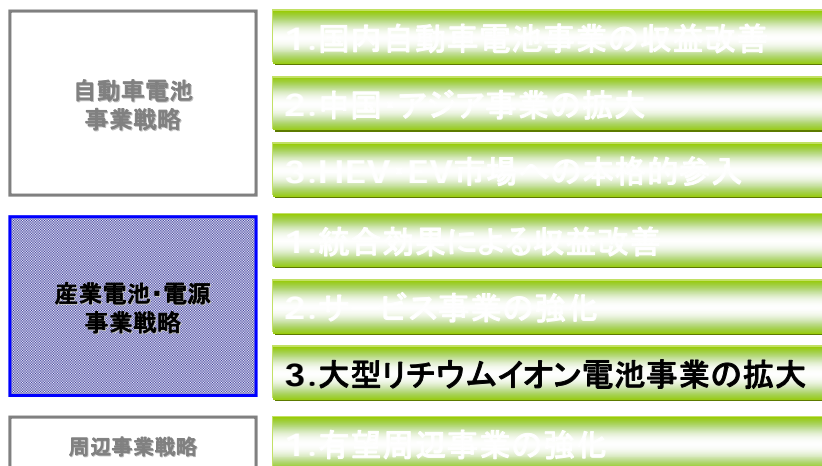
売上高



営業利益



7つの事業戦略

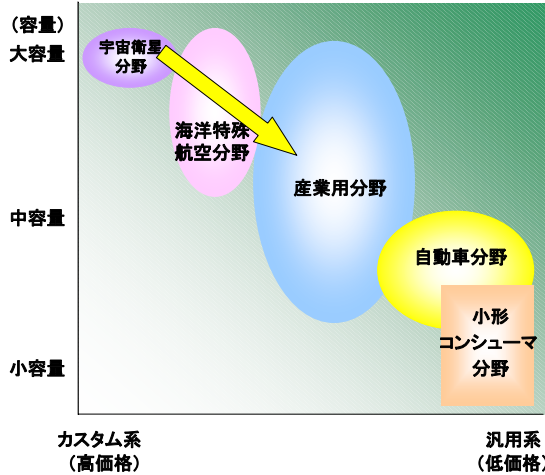


[産]大型リチウムイオン電池事業の拡大



GS Yuasa Corporation

(1)市場開拓状況



- 宇宙衛星分野**
同分野でのデファクトスタンダード化に成功
- 海洋特殊分野**
国内の従来型電池の代替を一巡し、海外の拡販活動中
- 航空分野**
同分野への新規参入を果たし、積極的な市場開拓を実施中
- 産業用分野**
鉄道、LLなどの分野で新用途拡大が期待される

[産]大型リチウムイオン電池事業の拡大



GS Yuasa Corporation

(2)用途

宇宙衛星分野
通信静止衛星「Thaicom-4」に搭載



海洋特殊分野
有人潜水調査船「しんかい6500」に搭載



Photo by: JAMSTEC

航空分野
米ボーイング社の次世代主力旅客機「787」の電力変換システムに搭載



産業用分野
電力の安定供給とともに環境負荷の低減を実現した鉄道用電力貯蔵装置



[産]大型リチウムイオン電池事業の拡大

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

(3)リチウムイオン電池の海外販売会社設立

社名: United Lithium Systems

設立: 2006年4月

所在地: ジョージア州アトランタ

資本金: 700,000US\$

事業内容: 米国におけるリチウムイオンセルの販売

3か年計画:

06年 マーケティング・販売活動および技術者の育成

07年 バッテリー・BMU(電池監視ユニット)の設計

08年 セル組み立ておよび検査の設備を導入



37

特別プロジェクト

GS YUASA

GS Yuasa Corporation

PJ-1 本社と管理間接部門の縮小

統合再編ため肥大化した本社間接部門を縮小し、本社経費削減を実施

PJ-2 国内自動車電池事業の利益改善

売価改定の実施、新商品の発売、統合に伴う徹底した合理化の実施(機種統合、工場拠点・販売拠点の集約、物流の合理化)

PJ-3 HEV・EV市場への本格的参入

ニッケル水素電池・リチウムイオン電池において世界一の基盤技術を確立、HEV事業を育成中

PJ-4 中国・アジア事業の拡大

自動車用: 中国インドでの生産能力の拡大、販売網の拡充、新製品の立ち上げ

二輪車用: 中国アセアンの密閉型電池強化欧米市場への供給拡大

PJ-5 大型リチウムイオン電池事業の拡大

特殊分野から汎用分野への用途拡大、デファクトスタンダードの確立、海外販売会社の設立、システム販売の開始

38

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1
広報室 広報部長 鹿乗 健次郎
TEL:075-312-1214